

武道に対するイメージに関する研究

加 賀 勝

1. 目 的

平成元年に中学校・高等学校学習指導要領（文部省）^{8),9)}の改訂により、「格技」の名称が「武道」に改められた。「格技」から「武道」への名称変更の大きな理由としては、「我が国固有の文化としての特性を生かした指導を一層充実するため」とされている。「我が国固有の文化としての特性」の具体的内容としては、「武道の伝統的な考え方を理解し、それに基づく行動の仕方を尊重することができるようにすることが大切である。特に、礼儀作法を尊重するとともに、勝敗に対しては公正な態度で練習や試合ができるようにする。」とされている。「我が国固有の文化として」「伝統的な考え方を理解し」「礼儀作法を尊重する」などは、他の運動領域には見ることのできない表現であり、このことから「武道」には、他の運動領域にはない何らかの「イメージ」が広く定着されているものと考えられる。武道の持つイメージに関する研究は、柔道や剣道などの単一種目に関してのものを見ることができ^{1),2),3),4),5),6),7)}。本研究では、武道全般の持つイメージを、武道実施者および武道非実施者を対象とした質問紙調査法により因子分析の方法を用いて検討することを目的とする。

2. 方 法

(1) 質問紙の内容と調査方法

武道の持つイメージを調査するため質問紙を作成した。質問紙の項目については、武道関連のイメージ・意識・性格に関する先行文献^{1),2),3),6)}により項目を収集し、予備調査を行い最終的に6つのカテゴリーについての28項目を質問項目とした。6つのカテゴリーは、「活動的な」、「身体的な」、「情緒的な」、「社会性の」、「意志の」、「武道の特徴他」であり、各カテゴリーについて4～5の質問項目を作成した。「活動的な」は慎重である・集中力がある・活動的である・積極的である・闘争的であるの5項目、「身体的な」は健康的である・体力的な持久力がある・力（パワー）がある・動作が機敏であるの4項目、「情緒的な」は情緒が安定している・さっぱりしている・落ち着きがある・素直である・明朗であるの5項目、「社会性の」は指導力がある・礼儀正しい・社交性がある・協調性があるの4項目、「意志の」は責任感が強い・決断力がある・忍耐力がある・努力家である・意思が強い¹⁾の5項目、「武道の特徴他」は道着姿がかっこよい・姿勢がよい・競技としておもしろい・個人種目なのでよい・師弟関係先輩後輩関係が厳しいの5項目である。質問紙では、これらの項目はランダムに配置され、それぞれの項目について5段階尺度法によって調査が行われた。

(2) 被 験 者

調査対象者は、O大学の武道系の7クラブに所属する部員（武道実施者）および、武道経験の無い学生（学校体育のみの経験者を含む；武道非実施者）である。O大学の武道系7クラブに所属する学生総数は236名であり、有効回答数は144（61%）であった。武道非実施者への調査は65名に対して行い、中学・高校時の武道系クラブ所属者等の回答を無効とした結果、有効回答数は60（86%）であった。対象者の性別は、武道実施者では男子95名（66%）女子49名（34%）、武道非実施者は男子23名（38%）女子37名（62%）であった。

また、武道実施者の武道経験年数は1年～15年であった。武道実施者の所属するクラブ名とその調査対象者数は以下のとおりである。

柔 道	24名	(16.7%)
剣 道	18名	(12.5%)
弓 道	48名	(33.3%)
合気道	30名	(20.8%)
少林寺	15名	(10.4%)
空 手	6名	(4.2%)
古武道	3名	(2.1%)
総 計	144名	(100%)

(3) イメージの推定方法

本研究では、武道実施者および武道非実施者が、武道についてどのようなイメージを持っているかを、統計学的に推定するため、因子分析法を用いることにする。各質問項目に対する回答は、「思う」から「思わない」までの5段階に得点化し、その得点について主成分分析を施した。固有値が1.0以上の主成分を因子として抽出しノーマル・バリマックス回転により多因子解を求めた。本研究で用いた因子分析は、岡山大学総合情報処理センターの NEC Acos-6 SPSSX 統計パッケージで行った。

3. 結果と考察

(1) 武道実施者が持つ武道のイメージについて

表1に抽出された因子負荷行列を示した。ここでは、因子負荷量が0.5以上の項目を有意として抽出し、因子の解釈を行った。全分散に対する累積貢献度は66.3%で、7つの因子が抽出された。

第1因子としては、因子負荷量の大きいものから「明朗である」(0.7750)、「協調性がある」(0.7203)、「社交性がある」(0.6861)、「素直である」(0.6395)、「さっぱりしている」(0.5957)であった。この因子は第3者に対する態度の因子と考えられ、『快活な社会性因子』と解釈した。この快活な社会性因子の貢献度は30.9%と、他と比べて大きく最も注目すべき因子であることがわかった。

第2因子としては、因子負荷量の大きいものから「責任感が強い」(0.6951)、「意志が強い」(0.6656)、「指導力がある」(0.6394)、「努力家である」(0.6182)、「道着姿がかっこよい」(0.5804)、「集中力がある」(0.5231)であった。よって、この因子は『意志性因子』と解釈した。

第3因子としては、因子負荷量の大きいものから「決断力がある」(0.7969)、「動作が機敏である」(0.7308)、「礼儀正しい」(0.6397)、「忍耐力がある」(0.5001)であった。よって、この因子は『行動を伴う意志性因子』と解釈した。

第4因子としては、因子負荷量の大きいものから「慎重である」(0.7539)、「姿勢がよい」(0.6437)、「落ち着きがある」(0.5961)、「情緒が安定している」(0.5850)、「競技としておもしろい」(0.5306)であった。よって、この因子は『情緒性因子』と解釈した。

第5因子としては、因子負荷量の大きいものから「力(パワー)がある」(0.6145)、「積極的である」(0.5698)、「活動的である」(0.5619)であった。よって、この因子は『活動的因子』と解釈した。

第6因子としては、因子負荷量の大きいものから「体力的な持久力がある」(0.7653)、「健康的である」(0.5867)であった。よって、この因子は『身体的因子』と解釈した。

第7因子としては、因子負荷量の大きいものから「個人種目なのでよい」(0.7537)、「師

武道に対するイメージに関する研究

表1 回転後の因子負荷行列 (武道実施者, N=144)

	Factor							Communnality
	1	2	3	4	5	6	7	
明朗である	0.7750							0.7234
協調性がある	0.7203							0.6405
社交性がある	0.6861							0.6510
素直である	0.6395							0.4714
さっぱりしている	0.5957							0.5700
責任感が強い		0.6951						0.7446
意志が強い		0.6656						0.6883
指導力がある		0.6394						0.6785
努力家である		0.6182						0.5865
道着姿がかっこよい		0.5804						0.5474
集中力がある		0.5231						0.7545
決断力がある			0.7969					0.6876
動作が機敏である			0.7308					0.7594
礼儀正しい			0.6397					0.6109
忍耐力がある			0.5001					0.6265
慎重である				0.7539				0.6509
姿勢がよい				0.6437				0.6759
落ち着きがある				0.5961				0.7780
情緒が安定している				0.5850				0.6877
競技としておもしろい				0.5306				0.6638
力 (パワー) がある					0.6145			0.6653
積極的である					0.5698			0.6862
活動的である					0.5619			0.7170
体力的な持久力がある						0.7653		0.7356
健康的である						0.5867		0.6559
個人種目なのでよい							0.7537	0.6517
師弟関係, 先輩・後輩関係が厳しい							0.6514	0.5443
闘争的である								0.7215
Eigenvalue	8.6464	2.6992	2.0832	1.4895	1.3728	1.1495	1.1336	
PCT of VAR	30.9	9.6	7.4	5.3	4.9	4.1	4.0	
CUM PCT	30.9	40.5	48.0	53.3	58.2	62.3	66.3	

(因子負荷量0.5以上を抽出)

表 2 回転後の因子負荷行列 (武道非実施者, N=60)

	Factor								Communnality
	1	2	3	4	5	6	7	8	
闘争的である	0.8282								0.7194
積極的である	0.7158								0.7304
力 (パワー) がある	0.6871								0.7149
師弟関係, 先輩・後輩関係が厳しい	0.6087								0.5744
競技としておもしろい	0.5040								0.6674
忍耐力がある		0.7829							0.6782
集中力がある		0.6746							0.7097
落ち着きがある		0.6339							0.8341
決断力がある		0.6271							0.6786
意志が強い		0.5639							0.7630
努力家である		0.5363							0.6508
社交性がある			0.6805						0.7123
道着姿がかっこよい			0.6657						0.7057
体力的な持久力がある			0.5991						0.6214
さっぱりしている			0.5120						0.5465
姿勢がよい				0.8305					0.7068
礼儀正しい				0.7868					0.6664
活動的である					0.7601				0.7670
健康的である					0.7125				0.7442
協調性がある						0.8644			0.8465
明朗である						0.6373			0.7312
動作が機敏である						0.5372			0.7581
責任感が強い							0.8460		0.8289
指導力がある							0.8054		0.7994
素直である								0.8234	0.7581
慎重である									0.6532
情緒が安定している									0.6759
個人種目なのでよい									0.7087
Eigenvalue	6.0785	3.7284	2.5978	2.1480	1.6758	1.4070	1.2572	1.0585	
PCT of VAR	21.7	13.3	9.3	7.7	6.0	5.0	4.5	3.8	
CUM PCT	21.7	35.0	44.3	52.0	58.0	63.0	67.5	71.3	

(因子負荷量0.5以上を抽出)

弟関係先輩後輩関係が厳しい」(0.6514)であった。上下関係の厳しい個人的な項目ということから、この因子は『日本の社会性因子』と解釈した。

この結果、武道実施者の武道に対するイメージの構造は、7つの因子から構成されていると考えることができた。飯田らは¹⁾、柔道選手に対する柔道選手のイメージとして「社会性、活動性がそなわった身体性因子」、「行動力のある意志性因子」、「積極性のある外的社会性因子」などがあげられるとしている。今回の調査でも『快活な社会性因子』の貢献度は他と比べて大きく、武道のイメージに、快活で社会性があることが最も大きく関係していることが考えられる。また、実際に武道を実施している者からみた武道のイメージであることから、このようにありたいというイメージの構造とも考えることができる。

(2) 武道非実施者が持つ武道のイメージについて

表2に抽出された因子負荷行列を示した。ここでは、因子負荷量が0.5以上を有意として抽出し、因子の解釈を行った。全分散に対する累積貢献度は71.3%で、8因子が抽出された。

第1因子としては、因子負荷量の大きいものから「闘争的である」(0.8282)、「積極的である」(0.7158)、「力(パワー)がある」(0.6871)、「師弟関係先輩後輩関係が厳しい」(0.6087)、「競技としておもしろい」(0.5040)であった。よって、この因子は『日本の社会性を持つ好戦的因子』と解釈した。この好戦的因子の貢献度は21.7%と、他と比べて大きく最も注目すべき因子であることがわかった。

第2因子としては、因子負荷量の大きいものから「忍耐力がある」(0.7829)、「集中力がある」(0.6746)、「落ち着きがある」(0.6339)、「決断力がある」(0.6271)、「意志が強い」(0.5639)、「努力家である」(0.5363)であった。よって、この因子は『意志性因子』と解釈した。

第3因子としては、因子負荷量の大きいものから「社交性がある」(0.6805)、「道衣姿がかっこよい」(0.6657)、「体力的な持久力がある」(0.5991)、「さっぱりしている」(0.5120)であった。よって、この因子は『外面的な社会性因子』と解釈した。

第4因子としては、因子負荷量の大きいものから「姿勢がよい」(0.8305)、「礼儀正しい」(0.7868)であった。よって、この因子は『生真面目な社会性因子』と解釈した。

第5因子としては、因子負荷量の大きいものから「活動的である」(0.7601)、「健康的である」(0.7125)であった。よって、この因子は『身体的因子』と解釈した。

第6因子としては、因子負荷量の大きいものから「協調性がある」(0.8644)、「明朗である」(0.6373)、「動作が機敏である」(0.5372)であった。よって、この因子は『行動を伴う社会性因子』と解釈した。

第7因子としては、因子負荷量の大きいものから「責任感が強い」(0.8460)、「指導力がある」(0.8054)であった。よって、この因子は『意志性因子』と解釈した。

第8因子として抽出された項目は「素直である」(0.8234)のみであった。単一の項目からその因子を定義することはできず、よって、この因子は『解釈不能』とした。

この結果、武道非実施者の武道に対するイメージの構造は、8つの因子から構成されていると考えることができた。このうち『日本の社会性を持つ好戦的因子』の貢献度は他と比べて大きく、武道のイメージに、好戦的であることが最も大きく関係していると考えられた。これは、武道実施者にはみることのできなかつた因子であり、実施者と非実施者の間に武道のイメージに関して開きのあることが考えられた。

4. ま と め

武道を実施している者および武道を実施したことのない者を対象として、武道に対する

イメージを質問紙により調査し、因子分析法を用いて検討した。

その結果、武道を実施している者が持つ武道に対するイメージを構成する因子として7つが抽出された。7つの因子を貢献度の大きいものから整理すると、次のとおりであった。

- ① 快活な社会性因子 (貢献度=30.9%)
- ② 意志性因子 (9.6%)
- ③ 行動を伴う意志性因子 (7.4%)
- ④ 情緒性因子 (5.3%)
- ⑤ 活動的因子 (4.9%)
- ⑥ 身体的因子 (4.1%)
- ⑦ 日本的社會性因子 (4.0%)

武道を実施したことのない者の武道に対するイメージを構成する因子としては、8つが抽出された。8つの因子を貢献度の大きいものから整理すると、次のとおりであった。

- ① 日本的社會性を持つ好戰的因子 (貢献度=21.7%)
- ② 意志性因子 (13.3%)
- ③ 外的な社会性因子 (9.3%)
- ④ 生真面目な社会性因子 (7.7%)
- ⑤ 身体的因子 (6.0%)
- ⑥ 行動を伴う社会性因子 (5.0%)
- ⑦ 意志性因子 (4.5%)
- ⑧ 解釈不能 (3.8%)

これらのことから、武道実施者は武道のイメージとして、快活な社会性や意志の強さを感じ、あるいはそうありたいと感じていると考えられた。それに対し武道非実施者は、日本の社会性をもつ好戰的な感じや意志の強さを武道のイメージとしてもつことがわかった。

引用・参考文献

- 1) 飯田順男他 (1984) 柔道選手に対する image の因子分析的研究, 武道学研究, 16巻2号: pp. 8-16
- 2) 小森富士登他 (1989) 西ドイツにおける剣道に対するイメージの研究, 武道学研究, 22巻2号: pp. 129-130
- 3) 中島 猷他 (1989) 西ドイツにおける柔道選手に対するイメージの因子分析的研究, 武道学研究, 22巻2号: pp. 183-184
- 4) 太田順康 (1989) 剣道の意識に関する研究——欧州剣士を中心に——, 武道学研究, 22巻2号: pp. 53-54
- 5) 高野 進他 (1989) 柔道に対する高校生の意識構造について——男女間差について——, 武道学研究, 22巻2号: pp. 163-164
- 6) 武内政幸他 (1989) オーストラリアにおける柔道選手に対するイメージの因子分析研究, 武道学研究, 22巻2号: pp. 185-186
- 7) 矢野 勝他 (1989) 柔道に対する女性の意識構造について, 武道学研究, 22巻2号: pp. 161-162
- 8) 文部省 (1988) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編, 東山書房
- 9) 文部省 (1988) 中学校指導書 保健体育編 体育編, 大日本図書

(平成5年7月14日受理)